

我南小発 第30号

令和5年3月8日

我孫子市教育委員会 へ

我孫子市立布佐南小学校学校運営協議会  
会 長 志垣 健二郎

令和4年度 第4回学校運営協議会 会議報告書

このことについて、我孫子市学校運営協議会規則第12条の規定により、次のとおり報告します。

出席委員名 【布佐中】 戸塚美由紀, 森政俊光, 肥後真理子, 篠崎和彦, 山下正信  
佐藤秀範, 松島 紀, 鈴木和子

【布佐小】 小林道治, 加藤理巳, 日景翔大, 鈴木治男, 小島茂明, 鈴木高士  
遠藤絵里香, 板倉 博

【布佐南小】 谷口育男, 山田恭生, 糸賀貴之, 志垣健二郎, 駒場アサ子  
新堀 都

記録者 氏名 山田恭生 (布佐南小学校教頭)

(令和5年 3月7日実施)

主な議事	発言者	協議・発言等の概要
※3校合同での実施		
1 開式のことば	南小校長	
2 会長あいさつ	布中会長	
3 協議等		(進行 篠崎会長)
①実践報告	各会長	布佐中学校 会長 篠崎和彦 副会長 山下正信 布佐小学校 会長 鈴木治男 布佐南小学校 会長 志垣健二郎
②R5小中一貫年間計画	南小教務	
③R5グランドデザイン承認	布中校長 参加者	・グランドデザインについて説明 ・拍手多数により承認
4. 閉会	布小校長	
※南小のみで実施		
5 協議		
①経営方針の振り返り	校長	○令和4年度の学校経営の振り返り 今後も、意見を取り入れながら、チームとして子ど

<p>② 3学期の教育活動 ③ 学校評価結果報告</p>	<p>教務 教頭</p>	<p>もたちの笑顔と活気あふれる南小にしていきたい。          &lt;成果&gt;          ・算数の研修をとおして、昨年度より全体的に学力が向上した。          ・校外学習も全て予定通り実施することができた。          ・情報を共有しながら組織として動けた。          &lt;課題&gt;          ・教員のさらなる指導力向上を図りたい。          ・子どもや保護者に、より丁寧に伝えていく工夫。          ・地域が入りやすいように依頼していく。</p> <p>○令和4年度3学期の教育活動の報告          ○令和4年度の学校評価結果の報告</p>
<p>④ 質疑及び提言</p>	<p>委員</p>	<p>・良い点と課題点の両方の意見をいただいた。          ・特に、課題点については、今後の教育活動の改善に役立てたい。          ・児童自由記述からは、子どもの「学校が楽しい」という意見がたくさん読み取れる。ここに、南小の目指すべき方向性に対する大きなヒントがあり、これらの意見を大切にしたい。          ・学校運営協議会委員へのアンケートは紙ではなくICT化してもよかった。保護者や児童アンケートのICT化により、集計が格段に効率化された。</p>
	<p>委員</p>	<p>・子どもが楽しければ保護者は納得する。          ・先生は、「子どもたちの先生」。中心は、子ども。          ・先生は自信をもってほしい。          ・日々挑戦する先生たちの姿勢が大切。          ・南小の先生たちの1人1人を大事にする姿勢に感謝したい。</p>
	<p>委員</p>	<p>・もっと先生たちに自信をもってほしい。          ・先生たちは一生懸命である。          ・家庭が学校に求めるものは年々増えている。先生たちは子どもに関わってほしい。それ以外の部分を地域が助けたい。地域とのつながりをさらに強くしてほしい。          ・南小の教育力は高い。          ・町探検、昔遊び、マラソンの手伝い等、積極的に復活させてほしい。          ・地域との交流や行事は、子どもたちが大人になってもずっと覚えている。          ・今年度の卒業式は全学年入ると聞いて、素晴らし</p>

<p>6 市教委より</p> <p>7 閉会</p>	<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>指導主事</p>	<p>いと思う。全校児童が入れるのは、南小ならでは。全校児童が参加することで、「次は私たちが」という気持ちが生まれたり、卒業生に対するあこがれが生まれたりする。それが、大切なつながりであり、南小のよさである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会のテントはり等、地域に協力を依頼してはどうか。</li> <li>・コーディネーターを活用してほしい。</li> <li>・もっともっと地域を巻き込んでほしい。</li> <li>・地域はもっと学校に入って行きたい。</li> <li>・学校に地域ルーム等を設けてみてはどうか</li> <li>・地域の方が教わるということは、子どもたちにとってのよい緊張感となる。それが学びに繋がる。</li> <li>・子どもが卒業しても地域の一員として力を尽くしたい。</li> <li>・学校評価アンケートについては、年々、意見が増えている印象である。意見を持っている保護者が増えたということ。それは、肯定的にとらえたい。</li> <li>・保護者は仕事をしていて忙しい。子どもを通して聞いたことをもっと誰かと話したい。でも、なかなかその機会がない。その思いが直接、学校に向いている印象を受ける。</li> <li>・子どもの輝く未来のために、先生たちには力をつくしてほしい。そのためのコミュニティ・スクールを実現させたい。</li> </ul> <p>○コミュニティ・スクールのあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校にお願いします」ではなく、「協力するから学校は地域に要望してください」でもなく、「一緒に考えましょう」というスタンスがコミュニティ・スクール。</li> <li>・保護者も地域も学校も、全て当事者。そうあってほしい。</li> </ul>
----------------------------	---	---

傍聴人1人（市教委1名）